

「世界観光に関する意見交換会 in 奈良」を開催しました。

2014.9.29

国連世界観光機関（UNWTO）アジア太平洋センター（RSOAP）は、一般財団法人アジア太平洋観光交流センター（APTEC）と共催で、2014年09月29日（月）、奈良県奈良市のホテル日航奈良「百合」にて、「世界観光に関する意見交換会 in 奈良」を開催し、RSOAPをご支援いただいているAPTEC賛助会員のみなさまを中心に約30名の方に御参加いただきました。

本会は2部構成で、前半の第1部では、世界観光の潮流や動向に知見のある3名のゲストスピーカーから、それぞれ約20分のプレゼンテーションをいただき、後半の第2部では、前半のプレゼンテーションや、参加者の世界観光に関する問題意識等をもとにパネル・ディスカッションが行われました。



浅沼理事長

冒頭に、UNWTOの浅沼唯明代表（APTEC理事長）から挨拶があり、日頃からのAPTECを通じたRSOAPへの理解やご支援及び本イベントへの参加に対する謝辞がありました。また、近年10億人を超えた世界観光客到着数や昨年1,000万人を超えた訪日観光客数を引き合いに、観光に対する社会における期待の高まりに言及し、これを経済・雇用への効果だけではなく、平和につながる文化の交流・融合の促進や旅を通じて多様性を現実に認識することにつなげていくことの重要性を指摘しました。

第1部のプレゼンテーションでは、はじめに映像作家、テレビ制作者、ライターそして国際的に著名な旅行番組「グローブ・トレッカー」のナビゲータを務めたホリー・モリス氏に「ワールド・トラベラーの目から見た日本」をテーマに講演いただきました。同氏は、今回の来日で訪ねた東京・三重（伊勢志摩）・奈良の旅先で出会った日本人、日本文化、そして美味しい食事と美しい自然に感動した実体験に基づき、例えば伊勢志摩の海女や、和食の会席料理などから、日本の伝統と文化の幅の広さと奥深さを感じたことについて語りました。



ホリー・モリス氏

※ホリー・モリス氏は、国際的に著名な旅行番組「グローブ・トレッカー」のナビゲータを15年間務め、近年では、同「シルクロード編（世界歴訪特別シリーズの一部）」のナビゲータとして、カシュガル（中国）からイスタンブール（トルコ）までの7か国をスタッフと共に訪ねた。作品に「Adventure Divas: Searching the Globe for a New Kind of Heroine(ランダムハウス刊)」やニューヨーク・タイムズ「Editor's Choice」がある。また、近著に『A Country of Women』がある。

2人目のプレゼンターは、UNWTO アジア太平洋部のハリー・ファン副部長で、「観光に係る世界の挑戦に対応した UNWTO における優先事項」をテーマにプレゼンテーションがあり、UNWTO の概要やその目的及び理念、主な活動について説明がありました。特に、世界観光倫理憲章にも謳われている持続可能な観光や社会的責任を負う観光開発を行うことの重要性について説明しました。



ハリー・ファン副部長



ジョアンナ・デバイン氏
テクニカル・コーディネータ

続いて、最後の講演者である UNWTO シルクロード部テクニカル・コーディネータのジョアンナ・デバイン氏からは、「シルクロード・ツーリズムの機会を創る」をテーマに、同部がシルクロード・ツーリズムの発展のために行っている「マーケティング&プロモーション」や「デスティネーション管理と受入れ能力の構築」、「旅行の円滑化」の3つの方面についてプレゼンテーションがあり、今後の計画について説明しました。また最後に前述のホリー・モリス氏がシルクロードを旅した「グローブ・トレッカー」のエピソードを DVD で上映し、シルクロードの旅の魅力を参加者と共有しました。

第2部では、上述3名のプレゼンターと代表がパネリストとなり、各プレゼンテーションの内容や参加者の関心事項をもとにディスカッションが行われました。

この中でモリス氏は同氏の旅行先である中央アジアに関して、ファン氏及びデバイン氏は、「国境を越えた観光ルートの開発、ビザ発行」などの参加者からの質問に回答しました。



パネル・ディスカッション

本会は、地方自治体や観光関係事業者等の APTEC 賛助会員様や行政関係者、学術関係者の皆様などが参加し、活発な質疑応答が行われ、盛会の内に終了しました。